ケンタ君

地形（ちけい）を分類するのは何のため？

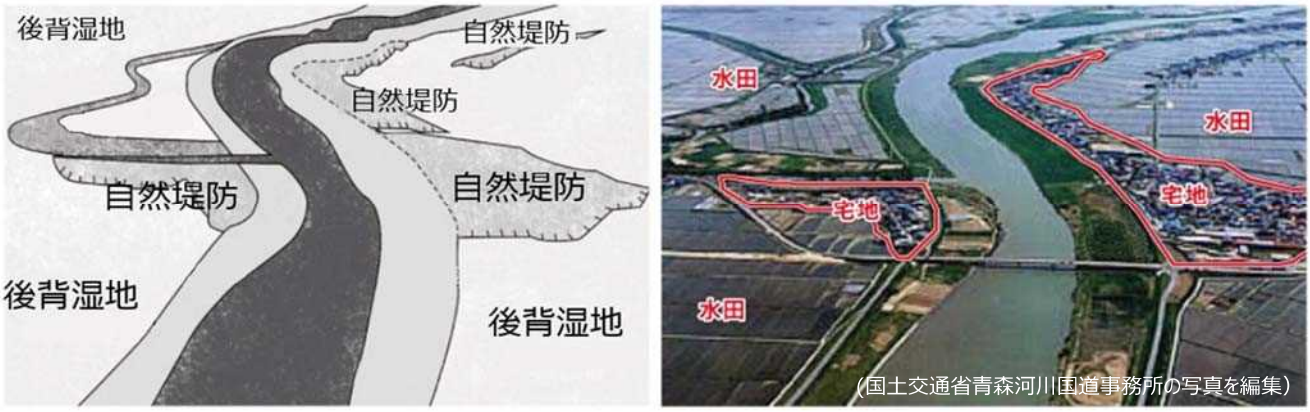
地面のデコボコやその広がりを調べて、似たもの同士に分けることで、役に立つことがたくさんあるんじゃ。

マップ博士

地形分類を見ることで、その土地がどのようにできたか、どんなふうに使えばいいかがわかります。たとえば川の近くの地形分類を例に見てみましょう。

下の左の図を見てください。水辺近くの土地は全体的に低くて平らですが、実は普段気付かないようなデコボコがたくさんあります。これらは、洪水のときに、川から運ばれてきた土砂がたまったり、川そのものが流れを変えたりしてできたものです。洪水がおこって川の水が周囲の土地にあふれはじめると、洪水によって運ばれてきた土砂が粒の大きいものから順に積もり、周りより小高い地形である「自然堤防（しぜんていぼう）」をつくります。一方、川から遠くなると、洪水で運ばれて積もる土砂は粒の小さな泥だけになります。このような場所は周りより低い「後背湿地（こうはいしっち）」とよばれる地形になり、土が軟らかくドロドロしていて、水はけはよくありません。

昔から人々は、このような川が作った地形を上手に使ってきました。人々が家を建てる場所に選んだのは、川に沿って小高く水はけのよい自然堤防でした。また、後背湿地は水を引きやすいので、田んぼに使いました。ただし最近では、後背湿地に土を盛って（盛土地（もりどち））、そこに家を建てることもあります。盛土地は、土を盛る前に比べると洪水の被害は受けにくいのですが、土地が軟らかいため、地震のときに揺れやすい特徴があります。



図：同じ場所の川沿いの地形分類（左図）と土地利用（右写真）

このように、土地のでき方や性質のちがいを明らかにする「地形分類」は、その土地を使う時に気をつけることを教えてくれます。土地のでき方と自然災害リスクがわかる地図については、ベクトルタイル「地形分類」―身の回りの土地の成り立ちと自然災害リスクがわかります―（ http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lfc_index.html ）に詳しく説明しています。この地図は、国土地理院のウェブ地図「地理院地図」にて公開していますので、ぜひ見てみてくださいね！

（応用地理部）